

- 1 題材名 拍のまとまりを感じ取ろう（6時間）
- 教材名 表現（歌唱） 「はしの上で」 久野静夫 日本語詞／フランス民謡
「たぬきのたいこ」 阪田寛夫 日本語詞／チェコ民謡／編曲者不明
- 表現（器楽） 2拍子でリズムタイム
3拍子でリズムタイム
- 鑑賞 「ミッキーマウスマーチ」 ジミー ドッド 作曲
「メヌエット」 ペツォルト 作曲

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A表現（1）歌唱 ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。
イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。
ウ 思いに合った表現をするために必要な次の（ウ）の技能を身に付けること。
（ウ） 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能
- （2）器楽 ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。
イ 次の（ア）について気付くこと。
（ア） 曲想と音楽の構造との関わり
ウ 思いに合った表現をするために必要な次の（ウ）の技能を身に付けること。
（ウ） 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
- B観賞 ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
イ 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。
- 〔共通事項〕（1）ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。
・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：リズム、拍
・取り扱う音符、休符、記号や用語：2拍子、3拍子

（1） 題材観

本題材では、児童が音楽の構造と曲想の関わりに気付き、どのように歌うかについて思いをもったり、曲の楽しさを見いだし曲全体を味わって聴いたりすることをねらいとする。拍のまとまりを感じ取りながら、拍子の違いやリズムの特徴が生み出すよさや面白さを感じ取り、友達と楽しみながら自分の思いに合った表現ができるようにしていく。

前学年で身に付けた拍に対する感覚を基にして、2拍子と3拍子の音楽の構造を感じ取りやすい表現と鑑賞の教材を配置する。手拍子や手遊びなどの身体表現を伴って歌う活動を楽しみながら、2拍子や3拍子の拍節に気付いたり感じたりできるようにしたい。そうして身に付けた知識や技能を生かして曲想を感じ取ったり、より豊かに表現を工夫したりする姿を目指したい。

この題材は、互いの歌声や伴奏を聴いて音を合わせて歌ったり演奏したりする技能の素地となる。このことは、今後、互いの音や副次的な旋律、伴奏を聴きながら音を合わせたり、創意工夫を生かして、全体の響きや各声部の音を聴きながら音を合わせたりすることへとつながっていく。音楽の楽しさを感じ取りながら、友達と音を合わせる活動を小中9年間を通して積み重ねていくことで、豊かな感性を育てていきたい。

（2） 指導観

第一次で扱う「はしの上で」の原曲はフランス民謡「アビニョンの橋で」である。八分音符、四分音符、付点八分音符による単純な動機のリズムが繰り返されており、歌唱の旋律は1オクターブ内で完結する。低学年の児童にもリズム・旋律ともに親しみやすい楽曲であり、2拍子の拍のまとまりも捉えやすいと考える。手拍

子をしったり体を動かしたりしながら繰り返し歌う中で、2拍子への気付きや曲想の感受に繋げられるようにしたい。

第一次の後半で扱う「たぬきのたいこ」の原曲はチェコスロヴァキア民謡「アンダルコの歌」である。八分音符と四分音符の組み合わせのリズムにより3拍子のまとまりをとらえやすく、「はしの上で」と同様に旋律が1オクターブ内で完結しており歌いやすい。阪田寛夫による日本語詞は「たぬき」の「た」を繰り返し強拍において韻を作り出しており、語感も楽しみながら歌うことができる。「はしの上で」で学んだことをもとに学習の見通しをもち、感じ取った3拍子の拍のまとまりや曲想を自分の歌唱表現や手遊び表現へつなげていく。

第二次で扱う鑑賞曲「ミッキーマウスマーチ」「メヌエット」は児童にも聴きなじみのある楽曲であり、思わず体を動かしながら拍子の違いを感じ取ろうとする姿が想像される。第一次で感じ取った拍のまとまりについて鑑賞曲の中でも主体的に感じ取った上で、拍子の違いから生み出される曲想の特徴にも気付かせたい。

題材を通して、ペアで歌唱や手遊び表現の工夫、聴き取った曲の感じについて伝え合う時間をとることで、友達の考えに気付いたり自分の表現や工夫、考えを深めたりする手立てとしたい。

3 題材の目標

- 拍のまとまりやリズムなどの音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な技能を身に付ける。(知識及び技能)
- 拍のまとまりの違いやリズムの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いをもったり、曲全体を味わって聴いたりする。(思考力、判断力、表現力等)
- 拍のまとまりやリズムの特徴に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に手遊び表現を工夫して歌ったり音楽を聴いたりする学習に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 【知技】 拍のまとまりやリズムなどの音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。	① 拍のまとまりやリズムなどの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。	① 拍のまとまりやリズムなどの特徴に合った表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に手遊び表現を工夫して歌う学習活動に取り組もうとしている。
② 【知技】 拍のまとまりやリズムなどの音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、互いの手拍子の音や伴奏を聴いて、音を合わせて拍を打つ技能を身に付けている。	② 拍のまとまりやリズムなどの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。	② 拍のまとまりやリズムなどの特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
③ 【知】 曲想と拍のまとまりやリズムなどの特徴との関わりについて気付いている。		

5 研究の視点

【視点2】音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

○常時活動の充実

「リズムタイム」として、拍打ちやリズム打ちをゲーム形式やリレー形式、コール&レスポンスなどの様々な形で行う。児童が楽しみながら拍節やリズムを感じ取ったり気付きを得たりし、知識技能の基礎を培い学びを深める一助としたい。

・ピタッとゲーム

拍に合わせて手拍子、拍のまとまりで音楽を止め、動きも止める。

- ・手拍子リレー

手拍子を1人ずつリレーする。無拍節、拍に合わせて、2拍ずつなど様々なバリエーションで活動する。

- ・まねっこリズム

教師や友達が打ったリズムを真似て手拍子を打つ。

○言語活動の工夫

- ・掲示物

曲のよさや面白さを感じ取り、自分の思いをもって表現するための一助として曲の感じを表す言葉を掲示し、自分の考えを話したり全体で共有したりする場面で活用できるようにする。

- ・あのねタイム

学習の中でペア活動「あのねタイム」を入れ、意見交換したり考えた手遊びを試したりする。対話の場面を設定することによって、拍のまとまりや曲想に合った表現を工夫している友達を見つけ、自分の考えを広め、共有できるようにする。

○指導計画の工夫

2拍子の「はしの上で」による学習は、歌唱から手遊びの工夫までの段階を一つ一つ全体で確認し、基本的な事項を確実に学べるようにしたい。まず毎時間のはじめに位置付けた常時活動により、拍に合わせて手拍子をする技能を楽しみながら身につけられるようにする。次に、楽曲から曲想や拍のまとまりを感じ取りながら歌唱や手遊び表現に取り組む。ICTの活用やペア活動などの手立てにより、自分の思いをもって表現を工夫したり学びを深めたりしていく。3拍子の「たぬきのたいこ」による学習では、「はしの上で」で学んだことをもとに児童主体で学習の見通しを立てたり、手遊びを工夫しながら歌ったりできるようにしたい。

【視点3】評価の在り方

本題材では、拍のまとまりやその特徴と曲想の関わりを感じ取りながら、自分の思いに合った表現を工夫する姿を目指している。発言や観察を通して評価するとともに、ICTも活用しながら児童の変容をより細かく見取っていく。

○ICTの活用

- ・自分自身のふりかえりと表現の工夫

児童が工夫した歌唱表現や手遊び表現をタイムシフトカメラやスカイメニューのカメラで録画する。それを自分自身で見ることで、自己評価したり試行錯誤を重ねたりしながら思いに合った表現を目指していくことができる。

- ・評価の見取り

児童が提出した録画から、拍のまとまりや曲想を感じながら表現している姿を技能の評価として見取ることができる。また、前時の録画と比較することによって表現の工夫の変容も見取り、思考・判断・表現の評価につなげることができる。

○主体的に学習に取り組む態度を見取るための評価計画

- ・継続的に見取る

[第一次]

第1時…教師の動きを真似ながら歌唱や手拍子表現に取り組んでいる。(観察)

第2時…歌唱や手遊び表現について様々な工夫を試している。(観察・発表ノート)

第3時…3拍子の特徴と曲の感じの関わりについて、ペアや全体で気付いたことを発言している。

(観察)

第4時…友達の表現のよさや面白さを見つけ、自分の表現に生かしている。(観察・発表ノート)

[第二次]

第5時…拍のまとまりを感じ取るため、進んで手拍子などの活動を試している。(観察・発言)

第6時…感じ取った楽曲のよさや面白さについて、友達と伝え合っている。(観察・ワークシート)

6 題材の指導計画及び評価計画（6時間扱い）（本時4/6）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆「音楽を形づくっている要素」	○教師の働きかけ ・目指す児童（生徒）の姿	評価規準 (評価方法)		
				知技	思	態
◎2拍子と3拍子を感じ取りながら「はしの上で」「たぬきのたいこ」を歌う。				① ②		
第一次	第1時	○ 常時活動「リズムタイム」で拍やリズムに合わせて手拍子をする。 ・ 教師の模倣をする。 ・ 2拍子の手拍子リレーやピタッとゲームをする。 ○ 「はしの上で」を歌唱する。 ・ 感じ取った曲想をペアや全体で共有する。 ・ 歌詞をアレンジしたり、手拍子したりしながら、繰り返し歌う。 ☆ [拍、リズム]	○ 正確なリズムでの歌唱につながるよう、常時活動で「はしの上で」に現われるリズムを取り上げる。 ・ 拍に合わせてリズムよく演奏しようとしている。 ○ 曲想を感じ取りながら歌唱表現できるよう、掲示物の言葉を参考に自分の考えを伝えるように促す。 ・ 拍のまとまりやリズムと曲想の関わりについて考えながら歌唱表現している。	知技 (記述・発言)		
	第2時	○ 常時活動「リズムタイム」で拍やリズムに合わせて手拍子をする。 ・ 2拍子の手拍子リレーやピタッとゲームをする。 ○ 「はしの上で」を歌唱したり、拍に合わせて手拍子したりする。 ・ 曲想や拍のまとまりを感じ取りながら歌唱する。 ○ 2拍子に合う手遊び表現を工夫しながら歌唱する。 ・ ペアで話し合ったり試したりする。 ・ 録画した自分の表現を見たり、再度工夫したりする。 ☆ [拍、リズム]	○ 拍のまとまりの感受につながるよう、2拍ずつのリレーを行う。 ・ 拍のまとまりに興味をもち、拍に合わせて手拍子している。 ○ 前時の学習や常時活動の内容を、それぞれの歌唱や手遊び表現の工夫につなげられるよう声をかける。 ・ 拍のまとまりやリズムの面白さを感じ取りながら、手遊び表現を工夫して歌唱している。		① (発言・聴取)	
	第3時	○ 常時活動「リズムタイム」で拍やリズムに合わせて手拍子をする。 ・ 教師の模倣をする。 ・ 3拍子の手拍子リレーやピタッとゲームをする。 ○ 「たぬきのたいこ」を歌唱したり、拍に合わせて手拍子したりする。 ・ 曲想や拍のまとまりを感じ取りながら歌唱する。 ・ 感じ取った曲想をペアや全体で共有する。 ・ 手拍子したり手遊び表現を工夫したりしながら、繰り返し歌う。 ・ 考えた手遊び表現を録画する。 ☆ [拍、リズム]	○ 正確なリズムでの歌唱につながるよう、常時活動で「たぬきのたいこ」に現われるリズムをとりあげる。 ・ 拍に合わせてリズムよく演奏しようとしている。 ○ 曲想を感じ取りながら歌唱表現できるよう、掲示物の言葉を参考に自分の考えを伝えるように促す。 ・ 拍のまとまりやリズムと曲想の関わりについて考えながら歌唱表現している。			

	第4時 (本時)	○ 常時活動「リズムタイム」で拍やリズムに合わせて手拍子をする。 ・教師の模倣をする。 ・3拍子の手拍子リレーやピタッとゲームをする。 ○ 前時に録画した手遊び表現を見ることで活動を想起し、本時のめあてをもつ。 ○ 3拍子に合う手遊び表現を工夫しながら歌唱する。 ・ペアで話し合ったり試したりする。 ・録画した自分の表現を見たり、再度工夫したりする。 ☆ [拍、リズム]	○ 拍のまよりの感受につながるよう、3拍ずつのリレーを行う。 ・拍のまよりに興味をもち、拍に合わせて演奏しようとしている。 ○ 前時の学習や常時活動の内容を、それぞれの歌唱や手遊び表現の工夫につなげられるよう声をかける。 ・拍のまよりのリズムなどの面白さを感じ取りながら、歌唱や手遊び表現を工夫している。 ・表現の工夫が自分の思いに合っているか、動画で確認したり繰り返し試したりしている。		↓	① (観察・聴取・発表ノート)
◎「ミッキーマウスマーチ」「メヌエット」を聴き、2拍子と3拍子を感じ取る。						
第二次	第5時	○ 常時活動「リズムタイム」で拍に合わせて手拍子をする。 ・2拍子や3拍子の曲に合わせてピタッとゲームをする。 ○「ミッキーマウスマーチ」と「メヌエット」を鑑賞する。 ・感じ取った曲想をペアや全体で話し合う。 ・拍に合わせて足踏みや手拍子をしながらか聴き、拍子の特徴に気付く。 ☆ [拍、リズム]	○ 第一次の内容を想起させるような声かけをする。 ○ 感じ取った曲想について、掲示物を参考にして自分の考えを話すよう促す。 ○ 拍のまよりについて、手拍子など体を動かしながら確かめられるようにする。 ・曲想と拍のまよりのリズムなどの特徴との関わりについて気付いている。	③知 (観察・発言)		② (観察・聴取)
	第6時	○「ミッキーマウスマーチ」と「メヌエット」を鑑賞する。 ・旋律の動き方を確かめる。 ・マーチは行進の音楽、メヌエットは踊りの音楽であることを知る。 ○「ミッキーマウスマーチ」と「メヌエット」どちらか1曲を選び、どんな時に聴きたいか、その理由も考えて書く。 ☆ [拍、リズム、旋律]	○ 旋律を口ずさんだり、図形楽譜を指でなぞったりして、2曲の旋律の動きの違いに気付くよう促す。 ○ 掲示物を参考に、気付いたことと感じたことの関わりについて考えるよう声をかける。 ・拍のまよりの旋律の動きなどの特徴から生み出される良さや面白さを感じ取りながらか聴いている。		② (ワークシート)	↓

7 本時の指導（4／6）

（1）本時の目標

拍のまとまりやリズムなどの特徴に合った表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に手遊びを工夫して歌う学習活動に取り組む。

（2）本時の展開

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕	○教師の働きかけ・目指す児童（生徒）の姿 ◇評価規準（評価方法）＊コロナ対応
1 ウォーミングアップをする。 ・「きらきら星」に合わせて体ほぐしをする。 ・あいさつの歌「Hello hello!」を歌い、歌う姿勢や心を整える。 2 既習曲を含む2拍子・3拍子の曲に合わせて「リズムタイム」を行い、前時までの学習を想起する。 ・まねっこリズムでリズム打ちをする。 ・ピタッとゲームで拍打ちをする。 ・手拍子リレーで拍のまとまりを捉える。 ☆〔拍、リズム〕 3 前時の振り返りから本時の目標を知り、学習の見通しをもつ。 ・前時に録画した友達の表現を見たり、真似たりして、3拍子のまとまりに合う歌い方や手遊び表現について知る。	○ 体をほぐしたり口形を意識したりしながら歌えるように助言する。 ○ 前時までに学習した2拍子と3拍子について確認する。 ○ 前時に児童が考えた手遊びの中から、3拍子のまとまりに合っている手遊びを紹介する。その手遊びのパターンをいくつか黒板に掲示しておく。
3拍子のまとまりに合うような手遊びの仕方を工夫しよう。	
4 歌唱や手遊びの表現を工夫する。 ・前時に録画した自分の表現を見て、3拍子のまとまりに合っているか確認したり、本時はどんな工夫をしようか考えたりする。 ・タブレット（タイムシフトカメラ）を用いて何度も手遊び表現を試す。 ・動画を見て3拍子のまとまりに合った表現になっているか確認し、繰り返し試す。 ・ペア活動「あのねタイム」で歌唱や手遊びの表現の工夫を見せ合ったり伝え合ったりする。 ・自分の思いに合った手遊び表現をタブレット（発表ノート）の前時の続きに録画する。 5 全体で歌唱や手遊び表現の工夫を共有する。 ・前時と本時の手遊びを見比べ、自分の手遊び表現の変化に気付く。 ・友達の手遊び表現の工夫を知る。 ・自分の手遊び表現の工夫を紹介する。 6 学習のまとめをし、次時への見通しをもつ。	○ 意見交換の話型を示したり、足踏み・膝打ち・手拍子それぞれの掲示物を活用したりして、意見交換や手遊び表現の工夫が活発に進むよう働きかける。 ○ 活動が進まない児童には、3拍子のまとまりに合っている友達を真似たり、黒板に掲示してある手遊びのパターンを試したりするように声をかける。 ・3拍子の特徴を生かした手遊び表現を目指して、ペアと対話したり何度も試したりしている。 ＊ 向かい合っの歌唱を避けるため、ペアで手合わせをする動きは行わないよう声をかける。 ◇ 拍のまとまりやリズムなどの特徴に合った表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に手遊び表現を工夫して歌う学習活動に取り組もうとしている。 （主体的に学習に取り組む態度） 〈観察、発言、発表ノート〉 ○ 児童が考えた手遊び表現を全体に共有する。 ○ 友達の表現が3拍子のまとまりや曲想に合っているかや、友達の表現のよさや工夫を見つけながら真似てみるように助言する。 ・友達の表現を真似ながら、拍のまとまりや曲の感じに合う手遊び表現について考えたり感じたりしている。